

彩の国 連携力育成プロジェクト ニュースレター

第5号

2014年7月31日発行



【発行】埼玉県立大学／埼玉医科大学／城西大学／日本工業大学

【お問い合わせ先】埼玉県立大学事務局・企画担当 ☎ 048-973-4715 / ✉ kikaku@spu.ac.jp

平成26年度

彩の国大学連携学長会議開催

平成26年5月28日(水)、4大学の学長が集まり、プロジェクトの活動報告および今年度の活動計画を説明する会議が行われました。当日は埼玉県保健医療部の石川稔部長にもご出席いただき、これまでの取り組みに対する意見交換も行われました。

5月28日、大宮にて『彩の国大学連携学長会議』が開催されました。埼玉県立大学・三浦学長、埼玉医科大学・別所学長、城西大学・白幡副学長、日本工業大学・波多野学長、埼玉県保健医療部の石川稔部長にご出席いただき、石川部長からは「多分野の学生同士が、切磋琢磨し、専門職としての意見を交わしながら、利用者さんの視点に立ったサービスを追求するカリキュラムは、大変貴重」とのごあいさつをいただきました。

会議では、平成25年度の実施事業報告、今年度の事業計画説明がなされ、各学長からは『学生共同学習グループ“sa・i・fu”への期待』などが述べられました。

また、試行事業参加者への受講証発行の協議が行われ、各大学の学長による受講証へのサインが行われました。



4大学の学長および石川部長を中心に、様々な報告・意見交換がなされました。

右：事業に関する活発な意見交換がなされました。
下：4大学の学長に受講証にサインをいただきました。



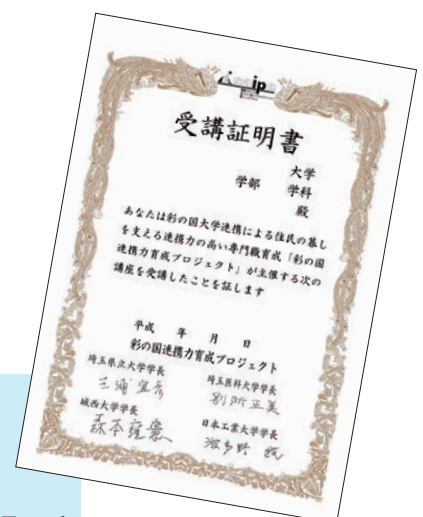
学長会議を終えて

3年間積み重ねてきたものが、埼玉県の地域を担う学生育成のための連携教育として形となってきており、後半戦に入り、本事業終了後の形をイメージしながら取り組んでいきたいと思います。



埼玉医科大学
柴崎智美 准教授

受講証下部には、4大学の学長のサインが。実際に授与される際には、参加した学生、教員の所属、氏名、参加した事業名が記載されます。



4大学で作る 『ヒューマンケア論』ビデオ教材

7月2日～4日の3日間、講義『ヒューマンケア論』ビデオ教材DVDの収録が行われました。全8巻分の収録には、4大学の教員、学生のみならず、各回のテーマにあわせて様々なゲストにお越しいただきました。

『ヒューマンケア論』は、「保健・医療・福祉の分野で展開する実践や、その対象となる人々の思いに触れることで、人が人を援助する意味や意義などを学ぶ」ために、埼玉県立大学において1年生全員の必修授業として開講されています。

今年度、この講義を他大学においても専門職連携実践（IPW）の基礎として学ぶことができるようにDVD教材化する取り組みが行われています。

収録当日は、埼玉県立大学の一室に、4大学の教員、学生、そして『保健・医療・福祉サービスの対象となる人』として様々なゲストが集まり、オリジナリティあふれる講義内容に、聞き手として参加した教員、学生は熱心に耳を傾けました。



第5巻『緩和ケアを通じて「生」の意味を考える』の収録。

今後の
予定

今後は、埼玉医科大学、城西大学、日本工業大学の後期授業やe-learning等で活用できるよう、編集作業を進めます。

interview 『連携を語る』

今回のインタビューゲストは、埼玉県立大学の講義『ヒューマンケア論』の科目責任者である、社会福祉子ども学科の朝日雅也教授です。特に障害者の就労支援がご専門です。接する相手を安心させる朝日教授の笑顔に、思わずこちらも笑顔になります。

そもそも、『ヒューマンケア』とは、一体何でしょうか？ 朝日教授によると、埼玉県立大学の設立の教育理念『保健医療福祉の連携と統合』を具体的に実践するうえで、その目的や、働きかけの共通性をとらえるために、ヒューマンケアと名付けて意識化し共有できるようにしたのだそうです。

「例えば、『相手の自立を尊重できる』『社会的な役割を持った人間としてケアの対象者をみていく』といったものが共通して出てくるんですね。そのために、ヒューマンケア論という、いわば手がかりというか、道しるべというか、そういったものを掲げることは、学生の皆さんに連携と統合を考えていただくうえで大

埼玉県立大学
保健医療福祉学部
社会福祉子ども学科
朝日 雅也 教授



朝日教授の研究室の棚には、障害者福祉に関する文献がぎっしり。壁には学生さんとのやりとりメモも。

変有効な手立てだと考えているんです。また、ヒューマンケアを通じて、逆に各々の専門的な立場や、専門性の意味みたいなものも重視されてきます。ヒューマンケアは、そういった考え方を持っていただくための、いってみれば“枠組み”かなと思っています」

一般に、保健医療福祉分野の学生は、資格に向けての頭脳労働の日々を過ごします。それに対し、朝日教授は、ヒューマンケア論は『感情労働』の時間であると説明してくださいました。サービス提供者側とサービスの受け手側との“相互作用”を感じ取れるようにするための、ひとつの“場”として、ヒューマンケア論という講義は機能しています。

国内外に saipe の取組を発信！

今年度、彩の国連携力育成プロジェクト（saipe）では、これまでの取り組みを広く発信することに力を入れています。“発信”の一環として行われているのが、4大学の教員による、国内外での学会発表。5月には『日本薬剤学会 第29年会』（埼玉県・大宮ソニックシティ）、6月には専門職連携分野の国際学会『All Together Better Health VII』（米国・ピッツバーグ大学）において発表が行われました。その他、平成26年7月現在、年度末までに5回の学会発表・シンポジウム開催が予定されており、高等教育や研究の分野における本プロジェクトに対する更なる関心の高まりが期待されています。

『All Together Better Health VII』



実習の解説や、学生のリフレクションの分析は注目を集めました。

学生共同
学習チーム
sa・i・fu

「素朴な疑問に答える会」開催

『sa・i・fu』の今年度の活動の一つ、“素朴な疑問に答える会”は、メンバーが気楽に集まり交流を深めながら、お互いの学部での考え方や知識の違いを感じるための場です。会の名称は、『ある学部では当たり前であることを、他の学部の学生から“素朴な疑問”として問題提示してもらい、それに答える会にしよう！』ということから名づけられています。

5月23日（日）には第1回が、7月5日（土）には第2回が開催されました。



第2回は『介護を必要とする人を地域で受け入れるには』をテーマに。

『日本薬剤学会 第29年会』



医療薬学部門において連携事業の取り組みをポスター発表しました。

発表を終えて

このたび、『All Together Better Health VII』でIPW実習（試行2）に関する研究発表をいたしました。今大会における各国の専門職連携の研究発表には、取り組み“紹介”の要素が多くみられ、この分野が萌芽期にあるのだと感じます。萌芽期を超え、国内外の専門機関と共に、今後もこの分野の発展に寄与いたします。



埼玉県立大学
保健医療福祉学部
大学間連携共同教育
推進事業担当

大部 令絵 特任助教

埼玉医科大学でコミュニティ・カフェを開催

6月23日、埼玉医科大学にてコミュニティ・カフェが開催されました。

第1回目は、4大学連携プロジェクトの取り組みや、学生による共同学習グループ“sa・i・fu”の活動紹介などが行われました。

参加学生からは、「saipeとsa・i・fuの違いは？」「埼玉県の事業を知った。今後参加してみたい」といった質問やコメントがあり、IPW実習に参加した学生が答えるなど、終始和やかな雰囲気での対話がなされました。



IPW実習経験者に加え、IPWに興味を持つ1年生も。

埼玉県立大学で saipe の説明会を開催

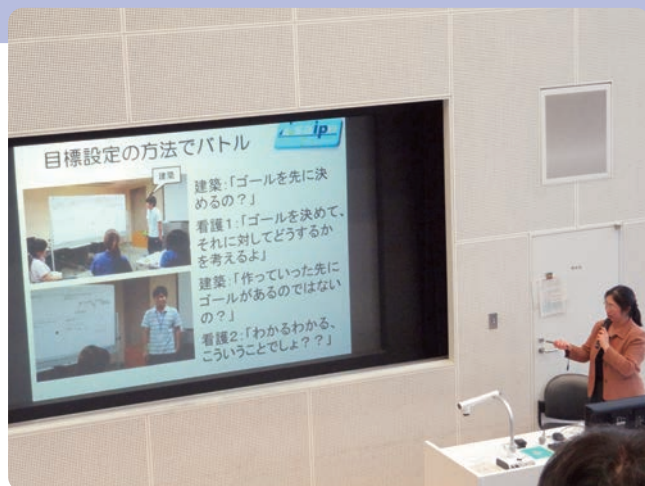
6月25日(水)、埼玉県立大学において彩の国連携力育成プロジェクト (saipe) の事業説明会が行われました。この日来場した教職員や学生に向け、4大学の教員が各事業の説明をしました。

IPW実習(試行2)

平成25年8月に行われたIPW実習(試行2)は、県内5施設で行われ、4大学の学生25名が参加しました。同年2月に行われた初回のIPW実習が1日間であったのに対し、試行2では3日間の実習、1日間の発表会が設定され、より長期間となった実習の中で、学生同士で深くお互いの専門領域を知り、チームワークを学びました。

実習に参加した学生からは、「多分野の視点を知り、それを共有できたことがチームとしての成長につながった」「個々がチームを意識し、皆が同じ方向を向いていることを確認し、適宜修正することが大切」といった感想を得ています。

平成26年度は、県内10施設、60人の学生がIPW実習に参加する予定です。



目標設定の方法も、学部によって様々。

4大学ワークショップ

平成25年度は計2回実施。『4大学による共同開講・研究』という目標に向けて、4大学の教職員や学生が交流を深めました。



IPW演習(緩和医療学)

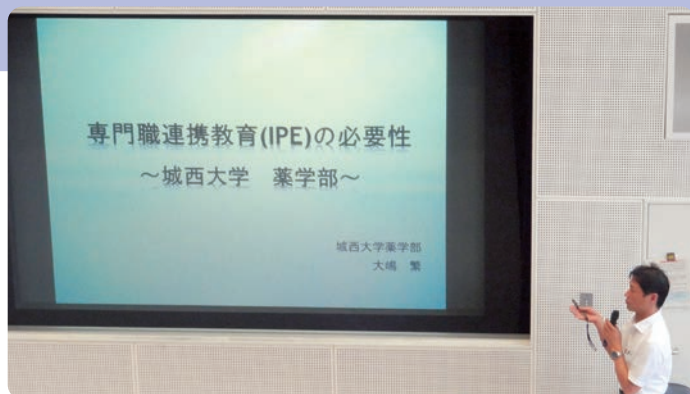
平成26年1月、薬学生と医学生が緩和ケアの対象者に関する事例に対して、治療やその後の生活について話し合いました。



各大学における専門職連携教育(IPE)の必要性

説明会当日はsaipeの事業説明だけでなく、各大学におけるIPEの必要性をテーマに発表が行われました。城西大学薬学部・大嶋准教授は薬剤師の立場から、日本工業大学工学部生活環境デザイン学科の瀬戸眞弓教授は住環境や空間デザインの立場から、専門職連携を学ぶ意義について説明がなされました。

薬剤師の立場からIPWを学ぶ意義を説明。



公式ホームページ、Twitter、Facebookで情報配信中!

WEB <http://saipe.jp>

 @saipe00

 <http://www.facebook.com/saipe.jp>

編集担当より

平成26年度がスタートし、約4ヶ月経ちました。今年度も8月末に実施されるIPW実習をはじめ、予定されている取り組み内容は多岐にわたります。本プロジェクトは4大学を拠点として、教育研究活動をメインに行われておりますが、最終的な目標は、専門職連携の能力を有する人材を輩出することを含め、埼玉県民の皆様の質の高い暮らしを支えることです。この大きな目標を忘れずに、チームメンバーが一丸となって活動してまいります。